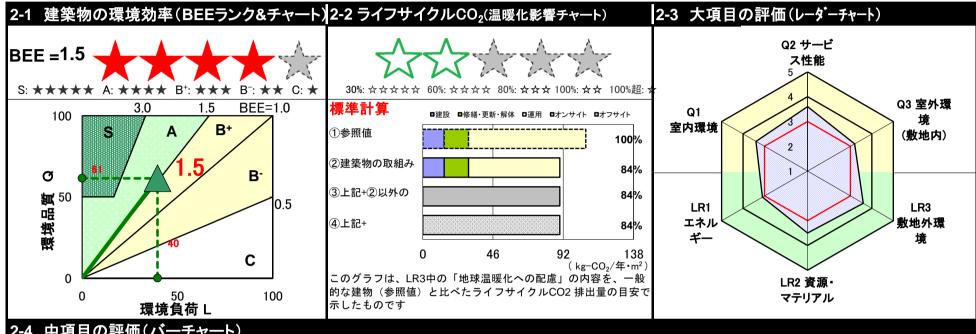


►(新築)2016年版 Ⅰ使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)





2-4 中項目の評価(バーチャート) 環境品質 $Q \mathcal{O} \mathcal{X} \mathcal{I} \mathcal{F} =$ 3.4 Q1 室内環境 Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内) Q1のスコア= 3.4 Q2のスコア= 3.6 Q3のスコア= 3.2 4.4 4.0 3 3.2 3.0 2 2.0 音環境 温熱環境 機能性 光·視環境 耐用性 対応性 生物環境 まちなみ 地域性•



3 設計上の配慮事項 総合		その他
		特になし
Q1 室内環境 内装材に吸音性能の高い材料を採用した。 空調設備の基礎は防振架台とした。 積極的な昼光利用を図った。 化学汚染物質に配慮した。 館内を全面禁煙とした。	Q2 サービス性能 階高にゆとりを持たせた。 各階にリフレッシュできるスペースを設置した。 メンテンナンス高い材料を使い維持管理に配慮した。 建物の耐震性能を高めた。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内緑化に努めた。 屋上には遮熱塗料を使用した。 外観は景観に配慮したデザインとした。
LR1 エネルギー 効率の高い空調機、照明器具等を採用している。 執務室には換気窓を設置し自然の通風を確保した。	LR2 資源・マテリアル 節水型の衛生機器を採用した。 仕上げ材には一部リサイクル材を採用した。	LR3 敷地外環境 駐車・駐輪場を確保し、周辺の交通渋滞緩和に努めた。 敷地外の日照にも配慮した。

- ■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
- ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
- ■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと ■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される